セリーヌとジュリーは舟でゆく（1974）

CELINE ET JULIE VONT EN BATEAU

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 Color
時間 192分
初公開日 1993/07/17
公開情報 フランス映画監督協会＝東京日仏学院＝アテネ・フランセ
リバイバル 1993/07［コムストック＝テレビ東京］

【解説】

先ごろ物故した哲学者ジル・ドゥルーズが、ジャック・タチと並ぶフランス・コミック映画の最高傑作、と評したことからも分かる通り、三時間を超える“大作”なのだが、その長尺を気にさせないＪ・リヴェットの映画遊戯の迷宮だ。パリの公園のベンチでジュリー（ラブリエ）は魔術の本を読んでいる。別のベンチには猫が。そこをセリーヌ（ベルト）が走り抜け、サングラスとスカーフを落とし、それをジュリーが拾って追いかけるが、追いつくと思うとまた離れ、追跡ごっこの様相を呈す。この魅力的な開幕で、二人の主人公のいわく言い難い奇妙な結びつきは絶対のものだと思わせる手口は、黄金期のハリウッド映画のそれのようで、思わず引き込まれる。そこから続く“不思議の国のアリス”にインスパイアされたという物語は、唐突に開始される二人の共同生活にしろ、彼らが互いに入れ替わってそれぞれの分身になる展開にしろ不条理極まりないのだが、多くが即興演出から導き出されたという描写の一つ一つが大変生き生きとして、見る者を困らせはせず快く惑わせる。やがて、ある郊外の屋敷にひきつけられた二人は魔法のボンボンをなめ、そこで起こる少女毒殺に至る物語を幾度となく幻視する。妻に先立たれた男オリビエ（監督バルベ・シュローデル＝バーベット・シュローダー）の娘マドリンが、彼の義姉カミーユと亡き妻の友人ソフィの彼をめぐる愛の葛藤の中殺される（妻の遺言で娘の成長するまで彼は再婚できないのだ）という――その結末を変えようと、二人はボンボンが切れ、偶然に調合した薬の力で夢の中に入り込み、セリーヌとジュリーで“二人で一人”の付き添い看護婦アンジェールとして、少女を助け出そうとするのだが……。確かにこんな幻想的で、しかし楽しい冒険活劇は見たことがない。一つの全く新しい映画体験をもたらしてくれる快作だ。

【クレジット】

監督	ジャック・リヴェット	Jacques Rivette
製作	バルベ・シュローデル	Barbet Schroeder
脚本	ジュリエット・ベルト	Juliet Berto
	ドミニク・ラブリエ	Dominique Labourier
	ビュル・オジエ	Bulle Ogier
	マリー＝フランス・ピジェ	Marie-France Pisier
	ジャック・リヴェット	Jacques Rivette
撮影	ジャック・レナール	Jacques Renard
音楽	ジャン＝マリー・セニア	Jean-Marie Senia
出演	ジュリエット・ベルト	Juliet Berto
	ドミニク・ラブリエ	Dominique Labourier
	マリー＝フランス・ピジェ	Marie-France Pisier
	バルベ・シュローデル	Barbet Schroeder

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

ナタリー・アズナル
ビュル・オジエ　　Bulle Ogier

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.